

## 【地方創生交付金を充当した事業の評価検証シート】

- ① ASAトライアングル（南あわじ・鳴門・東かがわ）を結ぶサイクリングツーリズム推進事業
- ② 未来の担い手確保・育成総合支援事業
- ③ 南あわじ市三力（魅力・味力・見力）発信事業（商工観光課実施分）
- ④ 南あわじ市三力（魅力・味力・見力）発信事業（広報情報課実施分）
- ⑤ 松帆銅鐸を活用した郷土愛の醸成と地域経済の活性化
- ⑥ 南あわじドローン（UAS）産業育成事業
- ⑦ 南あわじを売り出そう地域が元気になる事業

# まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【平成29年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	①ASAトライアングル(南あわじ・鳴門・東かがわ)を結ぶ、サイクリングツーリズム推進事業					新・継・拡の別	継続	補・単の別	補	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち
事業の目的	南あわじ市、鳴門市、東かがわ市は、ASAトライアングル交流圏連携推進協議会を組織し、設立から25年間、観光、文化等の交流を行っている。サイクリングがブームとなる中、淡路島から四国に渡れる方法がない状況である。 淡路島と鳴門市間の自転車輸送を可能にすることにより、地域経済の活性化を図る。										○	II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち
対象者(ターゲット)	<input checked="" type="checkbox"/> ①若者(10代、20代)		<input type="checkbox"/> ②子育て世代								施策目標	南あわじ市の交流人口増加
事業の概要	【概要】 南あわじ市と鳴門市間の自転車輸送を可能にすることにより、3市をつなぐサイクリングロードを設定し、また、多言語表示板の設置、レンタルサイクルの整備など環境整備及びPRを行うことにより3市の交流人口を増加させる。										達成状況	B
KPI	KPI①3市の交流人口増加数 KPI②南あわじ・鳴門間を渡った自転車台数									29年度実績に対する主管課自己評価	南あわじ市全体で観光交流人口が平成28年度:304万人、平成29年度:288万人と減少しており、自転車の陸路輸送についても周知不足等により、KPIを下回る結果となった。一方、PR動画の閲覧数が20万PVを超えるなど、サイクリングツーリズム事業全体としては一定程度の効果があったと考えられる。	
KPI①(下段実績)	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度						
KPI②(下段実績)	0	—	6,000人	6,000人	8,000人	10,000人						
事業期間	平成	28	年度	～	平成	32	年度					
総事業費(一般財源)	101,100 千円 ( 50,050 千円 )											
事業費内訳	年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度				総合戦略検証委員会による外部評価		
	事業費	1,000	35,508	15,100	26,000	14,000						
	特定財源	500	16,966	7,550	13,000	7,000						
取組実績及び事業費(総事業費、平成29年度事業費)	南あわじ市と鳴門市の間において、自転車を陸路輸送する等して、自転車が往来できる環境整備を行った。また、南あわじ市・鳴門市・東かがわ市をサイクリングロードで結び、イベントの開催などを通じて交流人口の増加と市民等の健康づくりを図った。 ①陸路輸送 529台 1,607千円 ②ツーリング支援体制整備 4,530千円 ガイドマップ作成、レンタサイクル導入、ウェブサイト制作等 ③サイクリング及び健康づくりイベント 2,805千円 ARスタンプラリー帳作成、ファンライド開催、PR動画制作 ④広報・CMウェブプロモーション 4,990千円 ⑤サイクルステーション新築 21,576千円											
新型交付金の対象区分	<input type="checkbox"/> ①先駆性のある取り組み <input type="checkbox"/> ②既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み <input checked="" type="checkbox"/> ③先駆的事例・優良事業の横展開									今後の方針		
担当部署等	産業建設部	商工観光課	観光係	担当者:	武市・並木	内線:	7203					

# まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	②未来の担い手確保・育成総合支援事業		新・継・拡の別	新規	補・単の別	補	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち	
									O II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち	
								III 魅力と味力があふれるまち(郷土)		
								IV 子育てしやすいまち		
事業の目的	<p>吉備国際大学農学部生に対し、農業の生産現場の魅力を伝え、新規就農者となれる人材を発掘し、若い担い手の確保を急ぐ地域とのマッチングを行う。</p> <p>集落の未来設計図を策定している集落において、農業研修生や新規就農者（以下、若者という。）が就農し、営農継続するためには地域との繋がりが信頼関係の構築が不可欠であり、新しく集落に入った若者が地域に溶け込みやすくする仕組みづくりを築く。また就農直後に安定した農業経営を行うために必要な農業用倉庫や農業用機械については地域において使っていない施設等を活用することにより、過剰な初期投資を抑制しながら農業経営に取組めるような仕組みづくりを構築する。</p> <p>また女性農業者の新たな視点を農業経営に組み入れ、南あわじ農業の幅を広げていくことを目的とする。</p>						達成状況	A 目標達成に向けて概ね順調		
対象者(ターゲット)	<input checked="" type="checkbox"/> ①若者(10代、20代)		<input type="checkbox"/> ②子育て世代			29年度実績に対する主管課自己評価		未来の担い手を確保・育成する事業で、新規就農者数は順調に増加し、また女性農業者のグループについても新規が1グループ増加し、他のグループについても積極的に事業を活用して、活動の幅を広げているという結果については評価できると考えます。 また、地元農業者が積極的に若者を地域に入れるために話し合いを実施していくなど、若者が地域に溶け込みやすくなる仕組みづくりを進めていく動きが一部地域で始まってきたことについても評価できると考えます。		
事業の概要	<p>【概要】</p> <p>① 吉備国際大学生の就農希望者を対象に就農支援プログラムを実施する。</p> <p>② 農業研修生や1ターン就農者が地域に溶け込み、地域の一員として信頼される人材となるよう地域が育てていく仕組みづくりを構築する。</p> <p>③ 新規就農者の初期投資を抑制するため、地域の使っていない施設等の利活用を促進する仕組みづくりを構築する。</p> <p>④ 男性とは違う視点から農業の新たな活路を見出す女性農業者のグループの活動を支援する。</p>						本事業については、一定の成果が出ているものの課題解決の糸口を掴み、次のステージに進んだことで、平成27年度に創設した当時では見えてなかった新たな課題に直面しているのが現状です。 平成30年度からの米政策の見直しを受け、地域農業も大きく変わろうとしており、今後の担い手確保に向けた仕組みづくりについては市、JA、普及センター、県民局、吉備国際大学等の関係機関、また農業経営士、青年農業士、農業委員会等の意見を踏まえながら方向性は維持しつつ、その時々状況に応じて見直しを行い、より良い担い手確保に向けた施策を展開していく必要があると考えます。			
KPI	KPI① 年間新規就農者数(45歳未満) KPI② 農業女子会メンバーグループ登録数									
KPI①(下段実績)	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度				
KPI②(下段実績)	0	—	2	5	6	—				
事業期間	平成 28 年度		～ 平成 30 年度							
総事業費(一般財源)	9,000 千円		( 6,300 千円 )							
事業費内訳	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度				
	事業費	—	500	1,760	5,150	—				
	特定財源	—	250	880	2,575	—				
	一般財源	—	250	880	2,575	—				
取組実績及び事業費(総事業費、平成28年度事業費)	<p>吉備国際大学生への就農支援を28年度と同様に実施した。</p> <p>また、未来の担い手確保育成支援事業では、1ターン就農者が地域に溶け込める仕組みづくりとして、地域の話し合いの場に参加し、地域の事務員として会議録の作成、写真撮影、地域で取り組む事業の書類作成などを行い、地域の方と接する機会を増やした。また、若手農業者の受け皿となる青年農業士クラスに法人化等の研修会参加を促した。</p> <p>農業女子プロジェクトでは、農業用機械操作の講習会の開催、取得した野菜ソムリエの知識を活かした食育活動など、前年度を上回る活動もあり、兵庫県でもその取組みが注目された。</p> <p>【平成29年度事業費】</p> <p>吉備国際大学生への就農支援 675千円                      未来の担い手確保育成総合支援 306千円                      農業女子プロジェクト 779千円</p>						総合戦略検証委員会による外部評価			
地方創生交付金の対象区分	<input type="checkbox"/> ①先駆性のある取り組み <input type="checkbox"/> ②既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み <input checked="" type="checkbox"/> ③先駆的事例・優良事業の横展開						今後の方針			
担当部署等	産業建設部	農林水産課	農業振興係	担当者:	永楽・清藤	内線:	7217			

# まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【平成29年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	③三力（魅力・味力・見力）発信事業【商工観光課実施分】					新・継・拡の別	継続	補・単の別	補	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち	
事業の目的	首都圏等の都市部において、南あわじ市の特産物や地場産業等を直接、見て・味わい・聞いて・知って頂くことで魅力を発進し、特産品の販路拡大・観光誘客・情報発信、さらには定住促進等の効果を狙った、地域の魅力をPRする総合拠点を作る。											○	II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち
対象者（ターゲット）	<input checked="" type="checkbox"/> ①若者（10代、20代）		<input checked="" type="checkbox"/> ②子育て世代									III 魅力と味力があふれるまち（郷土）	
事業の概要	【概要】 都市部において本市魅力の受発信に協力いただける店舗を発掘し、地域密着型情報の発信や農畜水産物のPR・販売促進を行う。また、ふるさと資源の映像コンテンツを作成する。									IV 子育てしやすいまち			
KPI	KPI①三力発信協力店舗等への卸売額									29年度実績に対する 主管課 自己評価	施策目標		三力発信協力店舗による認知度の向上
KPI① (下段実績)	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度							
KPI② (下段実績)	0	—	500千円	4,200千円	9,000千円	9,000千円							
事業期間	平成 28 年度		～ 平成 31 年度										
総事業費 (一般財源)	93,420 千円		( 59,210 千円 )										
事業費内訳	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度							
	事業費	0	3,876	28,544	36,000	25,000							
	特定財源	0	1,938	14,272	18,000	0							
	一般財源	0	1,938	14,272	18,000	25,000							
取組実績及び 事業費 (総事業費、 平成28年度 事業費)	三力発信事業推進業務として、南あわじ市特産物販路拡大・物産展協議会に業務委託し、都市部飲食店に向けて三力発信協力店の募集を開始し、三力発信協力店に対し、生産地ツアー等を実施し、市内特産物の販売を推進した。 H29年度 三力発信拠点運営助成 18,113千円 動画、映像等制作 10,431千円									総合戦略検証委 員会による外部 評価	達成状況		A
新型交付金の 対象区分	① 先駆性のある取り組み ② 既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み ③ 先駆的事例・優良事業の横展開										今後の方針		
担当部署等	産業建設	商工観光課	観光交流・施設 室	担当者：	並木・武市	内線：	7203						

ふるさとの資源が持つ本来の力を「魅力」、地域密着型の映像により情報発信する力を「見力」、本地域の特色である一次産業が持つ力を「味力」と位置づけ、これら三つの力を融合し、「三力発信事業」を実施している。  
平成29年度は、三力発信協力店舗数が58店舗と比較的順調に集まった。生産地ツアーにおいて、市内特産品の魅力を事業者に直接伝えることで、市内特産品の販売の促進につながり、三力発信協力店舗への卸売額も430万円とKPIを達成することができた。  
平成30年度は、引き続き三力発信協力店舗の発掘（新規100件以上）等を積極的に実施するとともに、平成31年度以降の事業の自走化に向けた検討を行う。

# まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

【まち・ひと・しごと創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	④南あわじ市(魅力・味力・見力)発信事業【広報情報課実施分】					新・継・拡の別	継続	補・単の別	単	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち	
事業の目的	南あわじ市は、素晴らしいふるさと資源を多く有するが、まだまだPRが不足している。SNS等のメディアを活用し、市のファンを増やすとともに、交流人口の拡大を図ることで、域外からの人・物・金の動きが生まれ、地場産業の活性化、さらに雇用の創出が図られ、ひいては人口減少の鈍化につなげることができる。										○	II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち III 魅力と味力があふれるまち(郷土) IV 子育てしやすいまち	
対象者(ターゲット)	<input checked="" type="checkbox"/> ①若者(10代、20代)		<input type="checkbox"/> ②子育て世代								施策目標	見力により南あわじ市のSNS等を利用した市の魅力発信	
事業の概要	【概要】 市営のケーブルテレビを運営しているという強みを活かし、本地域のふるさと資源の画像や映像コンテンツを制作し、ソーシャルメディアやホームページ、ケーブルテレビ、広報紙など既存メディアをあわせたこれまでにないクロスメディア(広報紙・HPとSNS等)による情報発信を実施する。										達成状況	A 目標達成に向けて概ね順調	
KPI	KPI①SNS登録システムを活用したフォトコンテスト等参加者数									29年度実績に対する主管課自己評価		障がい者など誰でも利用しやすいホームページを目指し、ホームページの改修をしたほか、職員向けにアクセシビリティ研修を行った。また、市公式フェイスブックページ及びインスタグラムページなどのSNSとホームページの連携をし、効率的・効果的に南あわじ市の魅力を発信した。 インスタグラムで開催したフォトコンテストでは、参加者数は目標の約半数となったが、市内の飲食店や市外の方からも投稿があり、フォロワーの確保に繋がっている。全SNSの合計フォロワー数についても当初見込みの約600人を越える1290人の登録があり、市内の魅力を多くの人に発信できたと評価している。 今後は、更なるコンテンツの充実を図り、昨年度以上に南あわじ市の「魅力」を発信し、交流人口の増加につなげる。	
KPI①(下段実績)	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度							
KPI②(下段実績)													
事業期間	平成 28 年度		～ 平成 31 年度										
総事業費(一般財源)	17,929 千円		( 10,880 千円 )										
事業費内訳	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度							
	事業費	0	1,500	13,029	1,700	1,700							
	特定財源	0	750	6,299	0	0							
	一般財源	0	750	6,730	1,700	1,700							
取組実績及び事業費(総事業費、平成28年度事業費)	ソーシャルメディアやホームページ、ケーブルテレビ、広報紙など既存メディアでの情報発信を目的として、ふるさと資源の動画ソースを制作し、SNSを通じて南あわじ市のPRを行ったほか、ユーザー参加型の「南あわじで見つけた美味しいものフォトコンテスト」を実施し、より効果的な魅力発信を実施した。また、ホームページの改修を行い、アクセシビリティの向上等を図った。 ◆SNS配信用動画ソース制作業務 平成29年度(実績) 431千円 ◆市ホームページ改修業務 平成29年度(実績) 12,598千円									総合戦略検証委員会による外部評価			
新型交付金の対象区分	<input type="checkbox"/> ①先駆性のある取り組み		<input type="checkbox"/> ②既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み			<input checked="" type="checkbox"/> ③先駆的事例・優良事業の横展開					今後の方針		
担当部署等	総務企画部	広報情報課	広報係	担当者:	土居・坂本	内線:	7412						

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【平成29年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	⑤松帆銅鐸を活用した郷土愛の醸成と地域経済の活性化						新・継・協の別	継続	補・単の別	補
事業の目的	市民講座やシンポジウムなど、住民意識の高揚を図る。レプリカ等による学校などへの巡回学習を行い、子供たちのふるさと意識の高揚を図る。						総合戦略上の位置付け			
対象者(ターゲット)	<input checked="" type="checkbox"/> ①若者(10代、20代)			<input checked="" type="checkbox"/> ②子育て世代			基本目標			
事業の概要	【概要】 松帆銅鐸や市内出土の土器などのレプリカを製作し、学校やイベント会場で展示を行い、地域の歴史に対する意識の高揚を図る。また、鑄造体験でミニチュア銅鐸を製作して、松帆銅鐸について学ぶ						I 地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち			
							II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち			
KPI	KPI① 松帆銅鐸関連商品売上額(千円) KPI② 滝川記念美術館玉青館入館者数(人) KPI③ 松帆銅鐸鑄造体験ワークショップ参加者数(人)						III 魅力と味力があふれるまち(郷土)			
KPI①(下段実績)	現状	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	IV 子育てしやすいまち			
KPI②(下段実績)	-	100千円	200千円	500千円	600千円	800千円	施策目標			
KPI③(下段実績)	-	97千円	765千円				郷土愛を育む、松帆銅鐸などの文化財整備			
事業期間	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度						達成状況			
総事業費(一般財源)	37,637 千円 ( 18,819 千円 )						A 目標達成に向けて概ね順調			
事業費内訳	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	29年度実績に対する主管課自己評価			
	事業費	0	5,163	14,637	18,000	-	KPI①銅鐸関連商品売上額やKPI③ワークショップ参加者数のKPIはクリアしている。今後は、玉青館の入込数を伸ばすため、玉青館を体験学習や公開展示の拠点として事業の展開を考える必要がある。			
	特定財源	0	2,500	7,318	9,000	-	松帆銅鐸の活用や普及啓発に関しては、まだ事業開始から3年程度であり、継続的な実施が不可欠である。調査研究の報道発表と連携をとりながら、市民や観光客の関心を松帆銅鐸に向けていく必要がある。			
取組実績及び事業費(総事業費、平成28年度事業費)	一般財源	0	2,663	7,319	9,000	-	また、体験学習やイベントを継続的かつ定期的に開催し、報道機関や市内報(フリーペーパー)を活用し、松帆銅鐸の普及啓発を市民等にアピールする。商品開発に関しては商品製作者への情報提供と共に販路の紹介等も実施することができた。			
	①松帆銅鐸PR経費補助金 3,500千円 松帆銅鐸や南あわじ市の歴史の魅力をPR、啓発するために組織された団体の活動に対し補助金を支出した。ノベルティ製作やワークショップキットの制作、3月4日には「淡路島古代フェスティバル」を開催した。イベント内ではワークショップには175人が参加し、ノベルティ配布数は800人、当日の入込数は、美菜恋来屋とイングランドの丘とともに前年度の倍近くとなった。 ②松帆銅鐸イベント開催 1,497千円 「淡路島ふるんず展」という青銅器を一堂に会した展示会を、2/3(土)~4/1(日)の期間、玉青館で開催し806人の来場者を得た。また松帆銅鐸型の大型絵本を作成し子供たちに普及啓発を図った。 ③松帆銅鐸活用調査実践委託 9,640千円 市民と一緒に実施する「南あわじまちづくりカフェ」を定期的に開催し、民間企業が松帆銅鐸を活用して稼ぐことができ、積極的に参画できるためのマーケティング調査やワークショップを開催し、自走に向けての仕掛けを検討した。「南あわじまちづくりカフェ」には述べ115人が参加し、5つの体験プログラムが生まれ、松帆銅鐸関連商品が13個生まれた。						29年度で体験プログラムや普及啓発キットなどのツールの制作が出来たので、その活用を30年度以降計画し実践する。PRするターゲットを定め、ターゲットに合った手法を活用し展開していく。また商品開発に注力し、松帆銅鐸の帰還を市民で歓迎できるような仕掛けを考えていく必要がある。また、松帆銅鐸単独でPRするのではなく、周辺の時代や文化財、地域の歴史と絡めて普及啓発を行う。(日本遺産、慶野松原、沖ノ島など)			
地方創生交付金の対象区分	① 先駆性のある取り組み ② 既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み ③ 先駆的事例・優良事業の横展開						総合戦略検証委員会による外部評価			
担当部署等	教育委員会	社会教育課	文化財係	担当者:	興津	内線:	2232			
							今後の方針			

# まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【平成29年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	⑥南あわじドローン (UAS) 産業育成事業		新・継・拡の別	継続	補・単の別	補	総合戦略上の位置付け	基本目標	○	I 地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち	
事業の目的	既存のGIS (地理情報システム) に新たな技術であるドローン (UAS) により取得した画像データ等を付加することによって、農作物の作付け状況や放棄田の状況把握などの新たな調査需要を生み出し、産業ドローン市場を開拓する。								29年度実績に対する主管課自己評価	II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち	
対象者 (ターゲット)	<input checked="" type="checkbox"/> ①若者 (10代、20代)	<input checked="" type="checkbox"/> ②子育て世代					III 魅力と味力があふれるまち (郷土)				
事業の概要	【概要】 経営体育成や放棄田対策、多面的機能支払等の事業実施にあたり、農用地を鮮明な画像で空撮し、データ取得を行い、GIS情報とリンクすることにより、データ化して情報を共有し事務の効率化を図る。加えて画像情報を分析することにより、農産物の作付け状況等の確実な把握を行う。						29年度実績に対する主管課自己評価	IV 子育てしやすいまち	農村を災害から守り、環境を各世代で維持管理する活動のために新技術を導入		
KPI	KPI①市内でドローンを運用した事業の契約額総計の増加 (千円) KPI②産業UASを保有し、安全運航マニュアルを策定し、定められた基準に基づく資格を有する操縦者を雇用する島内企業数 KPI③定められた基準に基づく資格を有する操縦者数							達成状況		A	目標達成に向けて概ね順調
KPI① (下段実績)	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		南あわじ市の主幹産業である農業関係を中心にドローンを利用することにより、新たな産業を育成することを目指してこの事業に取り組んだ。その結果、ドローンを使用することができる企業数が増加し、技術者も増加した。 また農業・漁業関係の試験を行うことにより、将来的なコスト低減化につながる事業を実施することができた。			
KPI② (下段実績)	3社	3社	5社	7社	9社	12社					
KPI③ (下段実績)	1人	1人	1人	10人	10人	10人					
事業期間	平成 28 年度 ~ 平成 31 年度										
総事業費 (一般財源)	89,992 千円 ( 30,000 千円 )										
事業費内訳	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
	事業費	-	29,992	25,000	20,000	15,000					
	特定財源	-	29,992	12,500	10,000	7,500					
	一般財源	-	0	12,500	10,000	7,500					
取組実績及び事業費 (総事業費、平成28年度事業費)	ドローンによる野菜生育状態観察データ収集試験、水中ドローン実用試験を実施し仕組み作りの実証を行った。また、導入加速化補助事業の審査委員会を運営しドローン操縦士育成補助事業を実施した。(6,417千円)  また、南あわじ市農用地 (2,840ha) について、空撮による現地確認を行った。さらに、多面機能支払データベースによる農地状況把握システムを構築した。なお、ドローンでの撮影にあたっては、地区ごとに撮影コースを自動設定することにより、将来的には経費削減につながる方法を検討した。(18,530千円)						総合戦略検証委員会による外部評価				
地方創生交付金の対象区分	① 先駆性のある取り組み ② 既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み ○ ③ 先駆的事例・優良事業の横展開						今後の方針				
担当部署等	農林振興部	農地整備課	担当者:	前川	内線:	7226					

# まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

【地方創生加速化交付金 事業実施評価書】

事業名	⑦南あわじを売り出そう地域が元気になる事業				新・継・拡の別	新規	補・単の別	補	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち	
事業の目的	農畜水産業を中心とした豊かな地域資源がありながら、交流人口の拡大や特産物の販売促進、6次産業化等が不十分であり、人口減少・少子高齢化・後継者減少の鈍化につなげるための実践活動が求められている。定住を促すには、所得の確保や仕事づくりが必要であるため、優れたふるさと資源及び地域そのものを内外に発信し、人・物・金を呼び込み、地域の経済を活性化させ、所得の確保及び仕事づくりにつなげるため、当該事業を実施する。							II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち			III 魅力と味力があふれるまち(郷土)	IV 子育てしやすいまち
対象者(ターゲット)	<input checked="" type="checkbox"/> ①若者(10代、20代)		<input checked="" type="checkbox"/> ②子育て世代		達成状況						B	やや遅れが生じており、取り組みを加速化させる必要がある
事業の概要	【概要】 地方創生事業交付金(先行型・上乘せ型)を活用してマーケティング戦略を実施し、まず、地域を知っていただくことを目的として、WEBサイト「あわじ国」やSNSを活用して地域の魅力を発信することにより、地域の一体感を醸成し、ステップアップする素地が出来た。次の段階へ進むには、市民参加の拡大と自立への誘導が不可欠であることから、「あわじ国バーチャリアリティ」として地域の魅力をWEBサイト及びSNSによる情報発信をしながら、地域が一体となった農商工連携(漁商観公連携)による新特産品(淡路島サクラマス)の開発及び情報発信を展開した。				29年度実績に対する主管課自己評価						平成28年度に引き続き、平成29年度も3月1日から、「淡路島サクラマス新ご当地グルメプロジェクト」(32店舗44種類のメニュー)をスタートさせ、観光宿泊施設・飲食店、生産者、観光協会、商工会、行政機関等地域が一体となり、農商工連携(漁商観公連携)、6次産業化に結び付き将来へ広がりのある展開が出来た。 これらの取組みは、新聞・テレビ・雑誌等、多くのメディアで取り上げられ、淡路島・南あわじ市の認知度向上と交流人口の拡大(じゃらんネット取扱いでは、宿泊人数 103.7%、宿泊金額110.4%(4/1~3/31前年比))につなげることが出来、大規模直売所売上額については、前年比107.2%と増加したが、大規模集客施設は前年度を下回る結果となった。	
KPI	KPI①大規模直売所売上額 KPI②大規模集客施設入園者数											
KPI①(下段実績)	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度						
KPI②(下段実績)		4.23億円	4.86億円	5.03億円	7億円	8億円						
KPI③(下段実績)		48万人	51万人	52万人	53.5万人	55万人						
事業期間	平成 29 年度		~ 平成 29 年度									
総事業費(一般財源)	9,713 千円		( 9,713 千円 )									
事業費内訳	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度						
	事業費		50,000	9,713								
	特定財源		50,000	0								
	一般財源		0	9,713								
取組実績及び事業費(総事業費、平成29年度事業費)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁商観公が連携して新しい特産品「淡路島サクラマス」の更なるブランド化を目指し、市内の宿泊施設、飲食店等32店舗と連携し、前年度に開発した鍋・丼に加え、SNS映えるサクラマスワンプレート・お土産・テイクアウトの新ご当地メニューを開発(ワークショップ4回開催)及び広報宣伝の実施。(9,000千円)</li> <li>・あわじ国WEBサイト及びSNSによる地域の魅力を情報発信。(713千円)</li> </ul>											
地方創生交付金の対象区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①先駆性のある取り組み				<input checked="" type="checkbox"/> ②既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み				<input checked="" type="checkbox"/> ③先駆的事例・優良事業の横展開			
担当部署等	産業建設部	食の拠点推進課	食の拠点推進係	担当者:	土井	内線:	7219	総合戦略検証委員会による外部評価				
									今後の方針			